

奥州遺産

No.42

ときを越え
受け継がれるもの

古今雛

〓 市武家住宅資料館内 〓

城下町の趣を残す水沢区の市街地。

その一角にある市武家住宅資料館では、1月28日から3月9日までの間「ひな人形展」を開催し、ことしも多くの観光客を楽しませた。「くくり雛まつり」もこの期間中に開催され、同館はその会場の一つにもなっている。

中でも、くくり雛とは一風違って、ひととき歴史を感じさせる「古今雛」は、古代雛に江戸の人形師が意匠を加え人気を博したものだ。現在のひな人形の原型ともいわれている。

平成25年2月、市が寄贈を受けたこの古今雛。葛西氏の元家臣で、近世を通して商人であった松本家において、長きにわたり保管されてきた。明治初期に、一関の旧藩主・田村氏から松本家が譲り受けたと言い伝えられている。城下町の水沢に、春の訪れを告げる古今雛。その伝統の趣は、見る者を歴史と幻想の世界へと誘う。



1 男雛と女雛の合わせて11体の古今雛。年に一度、ひな人形展の期間にのみ披露される 2 古今雛のほか、市武家住宅資料館では1862年に作られたくくり雛も展示

広告